
令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

学校法人 和田実学園

目 白 幼 稚 園

東京教育専門学校

目次

1. 法人の概要	2
1.1 基本情報	2
1.2 建学の精神	2
1.3 沿革	3
1.4 設置する学校	4
1.4.1 園児・学生	4
1.4.2 収容定員充足率	4
1.5 役員の概要	4
1.6 評議員の概要	5
1.7 教職員の概要	6
1.8 施設等	6
2. 事業の概要	7
2.1 東京教育専門学校	7
2.1.1 重点目標	7
2.1.2 学習成果	8
2.1.3 学生支援	9
2.1.4 教育環境	10
2.1.5 地域社会・卒業生への貢献	10
2.2 目白幼稚園	11
2.2.1 保育の質向上のための取り組み	11
2.2.2 園児募集への取り組み	11
2.2.3 保育環境の整備	11
2.3 法人	12
2.3.1 理事会の開催状況	12
2.3.2 評議員会の開催状況	13
2.3.3 理事会における重要審議事項と決議内容	13
3. 財務の概要	15
3.1 貸借対照表の概要	15
3.2 資金収支計算書の概要	15
3.3 事業活動収支計算書の概要（令和5年度）	15
3.4 5年間の推移（平成31年度(2019)～令和5年度(2023)）	16

1. 法人の概要

1.1 基本情報

名 称	学校法人 和田実学園
所在地	171-0031 東京都豊島区目白二丁目 38 番 4 号
電話番号	03-3983-3385
FAX 番号	03-3983-3386
ホームページ	http://www.wadaminoru.ac.jp/

1.2 建学の精神

本学園は、幼児教育を教育学の体系に位置づけて科学的に論じ、日本における独自の保育学を主張した和田實によって創設された。和田實は理想とする保育を実践するために、大正 4（1915）年に目白幼稚園を設立後、理想とする保育を実践するためには良い保育者の必要性を痛感して、昭和 5（1930）年に現在の東京教育専門学校を創設した。そして、和田實はその一生を幼児教育並びにその指導者の養成に捧げ、その道に進む人に多くの道標を残した。

創設者：和田實とその遺志を引き継がれた芦田昇によって示された建学の精神「知性と愛と自由」。幼稚園においては、その精神に満ちた善良な市民としての人格の基礎を培う幼児教育思想を実現実践し、東京教育専門学校においては、教育理念として「感謝・尊敬・寛容を中心とした性格陶冶を基礎条件とした誘導的方法による幼児教育」を明確に位置づけ、「その教育理念を理解し、職業人・社会人として必要な資質の完成を目指すため、出会う人と共に感動を共有しながら地域社会に貢献できる人材の育成」を教育目標として、創設以来、有為な人材を数多く輩出してきた。

建学の精神については、令和元年度の和田實研究委員会が中心となり、建学の精神の表現についての検討を行い、文案を作成した。今後も和田實研究委員会、評議員会等で適正な表現となっているかの確認を行っていく。

1.3 沿革

大正 4(1915)年	目白幼稚園を開園(東京府北豊島郡高田町＝現在地)。 初代園長に和田實が就任。
大正 5(1916)年	東京府知事より目白幼稚園の認可を受ける。
昭和 5(1930)年	目白幼稚園保母養成所を開校(東京市淀橋区下落合)。 初代所長に和田實が就任。 目白第二幼稚園を開園。初代園長に和田實が就任。
昭和 7(1932)年	和田實著『実験保育学』が出版される。
昭和 9(1934)年	「目白幼稚園保母養成所」を「東京目白保母学校」へ名称変更。
昭和 18(1943)年	和田實著『保育学』が出版される。
昭和 19(1944)年	目白幼稚園は建物強制疎開のため閉園。 第二目白幼稚園は戦時託児所となる。
昭和 20(1945)年	戦災で校舎焼失のため休校。
昭和 25(1950)年	「東京目白保母学校」を「東京教育専修学校」へ名称変更し 再開。目白幼稚園内にて1部(昼)・2部(夜)制となる。
昭和 26(1951)年	学校法人 目白保育学園を設立。初代理事長に和田實が就任。 文部大臣指定の幼稚園教員養成機関となる。
昭和 33(1958)年	教育職員免許法の改正により2年制となる。
昭和 39(1964)年	目白幼稚園・東京教育専修学校の校舎を改築。
昭和 40(1965)年	新校舎が完成。幼稚園50周年、学校35周年を迎える。
昭和 43(1968)年	新校舎を3階まで落成(東京都新宿区下落合)。
昭和 44(1969)年	1部(昼)は、保母資格の取得が可能となる(厚生大臣認可)。
昭和 51(1976)年	「東京教育専修学校」を「東京教育専門学校」へ名称変更。 下落合校舎5階まで増築。
平成 2(1990)年	「学校法人 和田実学園」へ名称変更。 専門学校創立60周年を迎える。
平成 7(1995)年	専門士の称号付与校となる(幼稚園教諭・保母養成科)。 幼稚園創立80周年を迎える。
平成 11(1999)年	幼稚園教諭・保育士養成科へ科名変更。 2号館校舎を開設(東京都新宿区下落合)
平成 12(2000)年	専門学校創立70周年を迎える。 新教育課程の認可を受け、1・2号館での授業を開始。
平成 17(2005)年	幼稚園創立90周年を迎える。
平成 19(2007)年	和田實著『幼児教育法』現代語版が発行される。
平成 21(2009)年	新園舎・新校舎を落成(東京都豊島区目白)。 2号館校舎を閉鎖。
平成 23(2011)年	和田實生誕135周年記念・幼児教育研究会を行う。
平成 27(2015)年	幼稚園創立100周年記念式典を行う。
平成 28(2016)年	下落合校舎(1号館)を閉鎖。

1.4 設置する学校

設置する学校	学校設置認可
目白幼稚園 (東京都豊島区目白二丁目 38 番 4 号)	大正 4(1915)年 11 月 1 日
東京教育専門学校 (東京都豊島区目白二丁目 38 番 4 号)	昭和 5(1930)年 8 月 19 日 (旧名称：目白幼稚園保母養成所)

1.4.1 園児・学生

(令和 5 年 5 月 1 日現在) (単位：名)

区 分	収容定員数	在籍園児・学生数
目白幼稚園	100	43
東京教育専門学校	300	186

1.4.2 収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

区 分	平成 31 年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
目白幼稚園	29%	31%	38%	40%	43%
東京教育 専門学校	73% (内訓練生 20%)	80% (内訓練生 23%)	70% (内訓練生 27%)	65% (内訓練生 20%)	62% (内訓練生 20%)

1.5 役員の概要

定員数：理事 6 名、監事 2 名 / 現員：理事 6 名、監事 2 名

(令和 6 年 3 月 31 日現在)

区 分	氏 名	就任年月日	常勤・非 常勤の別	主な現職等
理事長	北原 隆史	(理事) 平成 29 年 4 月 1 日 (理事長) 令和 3 年 3 月 8 日	常 勤	東京教育専門学校 校長
理 事	近喰 晴子	令和 3 年 3 月 27 日	常 勤	目白幼稚園 園長 東京教育専門学校 副校長
理 事	藤村 公三郎	令和 5 年 6 月 3 日	常 勤	和田実学園 総務部長 東京教育専門学校 講師
理 事	西島 義昭	平成 23 年 4 月 1 日	非常勤	弁護士
理 事	中野 宏	平成 29 年 6 月 1 日	非常勤	元会社役員
理 事	和田 志郎	令和 3 年 5 月 1 日	非常勤	元研究開発専門員
監 事	平井 久雄	平成 22 年 4 月 1 日	非常勤	元会社役員
監 事	峯 岩 男	令和 4 年 4 月 1 日	非常勤	幼稚園園長

1.6 評議員の概要

定員数：16名 / 現員：16名

(令和6年3月31日現在)

氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別	主な現職等
北原 隆史	平成29年4月1日	常勤	学校法人和田実学園 理事長 東京教育専門学校 校長
会田 朋世	平成29年4月1日	常勤	東京教育専門学校 副校長
近喰 晴子	令和2年4月1日	常勤	目白幼稚園 園長 東京教育専門学校 副校長
藤村公三郎	令和3年4月1日	常勤	学校法人和田実学園 総務部長 東京教育専門学校 講師
大澤 力	令和5年4月1日	非常勤	東京教育専門学校 講師 東京家政大学名誉教授 附属中学・高校統括責任者兼高校校長
立岡 憲久	令和5年4月1日	常勤	東京教育専門学校 事務長
島根 恵	平成18年4月1日	非常勤	音楽家
西田 祐恒	平成26年4月1日	非常勤	保育園園長
大沼 郁子	令和2年4月1日	常勤	目白幼稚園 副園長
和田 志郎	令和3年3月27日	非常勤	元研究開発専門員
塚田 剛士	令和5年4月1日	非常勤	保育園副園長 兼 事務局長
宮崎 豊彦	令和5年4月1日	非常勤	東京都民間保育協会 会長 保育園園長
町田 章一	平成14年4月1日	非常勤	大妻女子大学名誉教授
石田 啓子	令和2年4月1日	非常勤	会社役員
藤田 興彦	令和2年11月1日	非常勤	児童育成協会 参事
小原 敏郎	令和5年4月1日	非常勤	共立女子大学教授

1.7 教職員の概要

(令和6年3月31日現在)(単位:名)

区 分	教 員		職 員		計
	本務	兼務	本務	兼務	
目白幼稚園	4	1	0	3	8
東京教育専門学校	11	26	8	2	47
合 計	15	27	8	5	55

1.8 施設等

(令和6年3月31日現在)

所在地 : 東京都豊島区目白二丁目38番4号

敷地面積 : 906.32 m²

建 物 : 鉄骨・鉄筋コンクリート造

地上7階・地下2階

区 分	種 別		床面積
目白幼稚園	園 舎	1階建	402.06 m ²
	園 庭	第1園庭、第2園庭	633.09 m ²
東京教育専門学校	校 舎	7階建(2~7階)	1692.48 m ²
幼稚園・学校	地下ホール	地下1、2階	537.63 m ²

2. 事業の概要

2.1 東京教育専門学校

2.1.1 重点目標

本学園の教育理念を「感謝・尊敬・寛容を中心とした性格陶冶を基礎条件とした誘導的方法による幼児教育」として明確に位置づけ、「その教育理念を理解し、職業人・社会人として必要な資質の完成を目指すため、出会う人と共に感動を共有しながら、地域社会に貢献できる人材の育成」を教育目標としている。

◎コロナ感染症の蔓延に伴い、対面授業・遠隔授業を併用した形で行なっていたが、令和5年度においては、1・2年生同時に対面での授業に戻し、より充実した養成教育を実施した。

◎入学式・卒業式（保護者の参加人数を制限、非常勤講師も参加して実施）を予定通りの日程で実施した。謝恩会も4年ぶりに実施することができた。

◎体育祭は5月2日（火）に東京武道館にて実施する事ができた。2年生の実行委員が中心となり、コロナ前と変わらず、素晴らしい雰囲気での体育祭となった。

◎保育祭は予定していた期間を一部変更したが、4年ぶりに外部からの参加者、卒業生とのお子様を招いて実施するなど、実施内容を変更しながらも、以前の保育祭の形態に戻すことができた。10月20日（金）の午前に準備、午後から翌日にかけて保育祭を実施した。10月21日（土）には、音楽表現の授業の一環として、合唱の発表会を実施した。

◎夏期キャンプ実習は、8月11日（金）～13日（日）の2泊3日で、4年ぶりに実施することができた。学生17名、卒業生10名、お子様9名、ゲスト2名、スタッフ5名、合計43名が参加した。実施内容はカヌー・沢登り、学生が企画した流しそうめん・スイカ割り・モルック・手作りパン・キャンプファイヤー・花火大会などを実施した。

◎冬期キャンプ実習（スキー）は、3月8日（金）～10日（日）の2泊3日で実施した。

◎学事日程、補講なども予定通り行うことができた。

期末試験も昨年度同様、対面での一斉試験で実施した。

幼稚園・保育園・施設実習に関しても、予定通りに実施することができた。

[令和5年度 卒業生数等]

卒業者数 93名（内 男性9名）、9月卒業3名（女性のみ）

留年者数 1年生 留年4名（内 男性1名）、2年生 留年4名（内 男性1名）

休学者数 5名（内 男性1名）

退学者数 7名（内 男性2名）

除籍者数 5名（内 男性1名）

2.1.2 学習成果

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3ポリシーをもとに、認可された保育者養成課程に基づき、教育活動に取り組んでいる。

各授業においては、4年ぶりの対面授業で実施し、今まで蓄積してきた在り方を活かしながら、到達目標及びテーマを明確に明文化し、主体的に取り組むことができた。

保育者の資質として「職業人としての意識」、「共存・協力しながら育っていく姿勢」、「コミュニケーション能力」、「健康管理・生活管理」など、教育課程や教育課程外の活動を通して育むことの学習成果は、令和4年度より、さらに充実度は向上した。

成績に関しては、令和2年度からGPA（平均成績）を視野に入れた成績評価を実施し、学習成果の可視化を図った。また、GPA（平均成績）の成績が下位の学生には、個別指導・支援を継続的に実施している。

しかしながら、養成教育のあり方の更なる見直しと共通認識の確立は重要な課題であり、学生募集の状況からみても、養成教育の充実と学生生活の満足度の向上は、最重要課題として引き続き取り組んでいきたい。学生数の減少は極めて残念ではあるが、少人数ならではの一人ひとりが活躍できる、きめ細かい丁寧な養成教育に取り組んでいく。

このような状況において、進路決定者の95.2%が幼稚園教諭2種免許、保育士の資格を活かした就職先であった。また、2名は進学している。

令和6年度も対面授業を継続していく。令和5年度の反省を活かしながら、教育課程外の活動に関しても、今までの工夫や柔軟な発想を持って安全を確保しつつ、全ての活動を再開・実施する方向で考えていく。

2.1.3 学生支援

(1) 進路支援の充実

保育者養成校として、資格取得と共に保育現場への就職支援は、職業人を養成する専門学校としての責務であり、より一人ひとりにマッチしたきめ細やかな進路に対して支援が求められる。

保育現場の現状としては、待機児童という状況はほぼ無くなり、むしろ定員に満たない園が増えている。しかしながら、保育者の人手不足解消とまでは至っておらず、地域差はありながらも求人件数は多い（令和5年度 求人件数 1,911 件、令和4年度 求人件数 1,685 件）。

この状況下において、ミスマッチを少なくし、希望する現場へ繋げられる支援は難しい状況は続いている。令和3年度において、企業保育への就職率が令和2年度の12.6%→19.4%と上がってしまった事は大きな反省点であり、綿密な個別指導の在り方、就職先の情報や求人情報を共有する必要性が課題であった。

また、幼稚園への就職率増加も、幼稚園教諭免許取得可能な養成校として重要な課題である。令和5年度においては新たな求人検索システムを導入し、継続的に支援体制を強化した。

就職希望学生数 87 名中、84 名が進路決定をし、3 月末時点での就職率は 96.6%（令和4年度 97.4%、令和3年度 95.1%）であった。

その内訳は下記の通りである。

幼稚園	15 名	17.9%	（令和4年度 18.2%、令和3年度 12.2%）
保育園	34 名	40.5%	（令和4年度 48.1%、令和3年度 46.9%）
こども園	7 名	8.3%	（令和4年度 5.2%、令和3年度 3.1%）
施設	8 名	9.5%	（令和4年度 10.4%、令和3年度 11.2%）
企業保育	7 名	8.3%	（令和4年度 3.9%、令和3年度 19.4%）
公立施設	5 名	6.0%	（令和4年度 7.8%、令和3年度 6.1%）
一般企業	8 名	8.3%	（令和4年度 3.9%、令和3年度 1.0%）

この他、進学が1名、海外留学1名であった。

令和6年度ではキャリア支援の在り方を拡充・充実させ、さらに円滑な進路支援体制を図っていきたい。

(2) 各種奨学金の対応による経済支援

和田実奨学金及び生命保険協会による奨学金の給付を実施した。

(3) 健康状態の把握

健康診断は4月15日（土）に実施した。検査項目は、胸部デジタル撮影、身体測定、視力、尿検査、血圧、診察である。また、オリエンテーションにおいて「健康に関する調査」を実施し、学習環境や生活面で気になる学生に対して、担当教員が個別に面談をして支援を行った。

2.1.4 教育環境

4年ぶりに1・2年生同時での対面授業を実施した。そのため、令和4年度末には同時対面授業の実施ができるように、6階の教室へ1人機の導入を実施している。

手指の消毒はもちろん、教室での換気の徹底、使用した教室の机・椅子・ドアノブ等の消毒の徹底は継続している。また、登校時に検温できるように体温計測器を継続して設置した。小教室及びピアノレッスン室には、継続してプラズマクラスター発生機能の空気清浄機を導入している。

令和5年度に実施した教育施設整備として、教員用印刷機の導入、各教室・フロアの照明をLED照明へ交換、オートサニタイザー（トイレの自動洗浄・感染症対策として薬品自動投入機）を導入した。

2.1.5 地域社会・卒業生への貢献

(1) 研修施設としての充実

①保育士等キャリアアップ研修プログラムの実施

8月21日（月）～8月25日（金） 「障害児保育」分野

「保健衛生・安全対策」分野

②各幼児教育・保育関連団体、その他文化活動団体への施設提供

子どもの文化研究所、青山シンフォニー、日本医学協会、東京都民間保育協会など

保育士等キャリアアップ研修は「障害児保育」「保健衛生・安全対策」の2分野を午前・午後の5日間で実施した。半日での実施の方が、保育士への負担が少ないのではないかと考えたが、参加者が減少したため、令和6年度では開催日程の在り方を再考するとともに、「障害児保育」「保健衛生・安全対策」の2分野に加え、「幼児教育」「保護者支援・子育て支援」の2分野を開催する方向で準備を進めている。

施設提供事業は、子どもの文化研究所への施設提供をはじめ、オーケストラの練習など、本校の施設利用が令和4年度よりさらに増えた。

「和田実研究会」は、残念ながら実施できなかった。

(2) 図書室の開放

令和4年度に続き、目白幼稚園の園児が自由に図書室を利用する事ができるように開放した。また、近隣の保育園（目白ひかり保育園）の園児が、定期的に図書室を利用することができるように開放した。

2.2 目白幼稚園

2.2.1 保育の質向上のための取り組み

(1) 学校関係者評価を実施した。

保育者による自己評価は実施していたものの、幼稚園関係者による評価は未実施であった。学識経験者、保育関係団体、地域代表、保護者代表 4 名を評価委員として依頼し、保育者の自己評価をもとに評価を依頼した。

結果は概ね良好で、子どもの楽しそうな声や表情が良質な保育の証である、教育要領に則った保育が行われている等、高い評価を得た。地域との関係、保育の質向上の取り組みは、さらなる努力の必要性があるとの指摘を受けたので、今後の課題として充実を図りたい。

(2) 保育者の資質向上への取り組み。

保育者に対し、外部研修を受ける機会を積極的に進めた。保育者が実践研究発表の機会が持てるように、学会への団体加入をした。

(3) 保育活動や経験値を豊かにする取り組み。

卒園生、教員による演奏会を実施し、生演奏を楽しんだ。豊島区が企画した「イケバスツアー」に応募し、年長児が参加した。また、園外保育の機会を多く持つなど、子どもの経験を広げ、保育の質向上に努めた。

(4) 幼児教育の質向上のための取り組み。

ICT化を進める東京都の補助金事業に応募し、補助金額 100%で電子黒板・書画カメラを導入した。導入により、今まで以上に子どもの好奇心に応え、探求心を育てることに繋がった。

2.2.2 園児募集への取り組み

(1) 木曜日を施設開放日として取り組んだが、人数制限をした影響もあり、利用者は少なかった。

今後に向けて、誰でも気軽に利用できる体制を整える必要がある。

(2) 土曜日を中心に未就園児を対象とした「おひさまクラブ」を開催した。

乳幼児人口の減少の影響も考えられるが、参加者は少なかった。

2.2.3 保育環境の整備

(1) スライドドアの改修工事を実施した。園児のケガや事故を未然に防ぐことに繋がった。

(2) 園庭のブランコが老朽化し、撤去した。園庭設置遊具がなくなり、その補充が必要となった。

(3) 補助金を活用し、幼稚園ホールにボルダリングを設置した。

このことで、子どもの体の機能を高める活動に寄与した。

2.3 法人

2.3.1 理事会の開催状況

	開催日	審議事項
第1回 (定例)	令和5年5月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・学園状況報告 ・めじろ会（同窓会）について ・令和4年度決算報告について ・令和4年度事業報告について
第2回 (定例)	令和5年6月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・学園状況報告 ・令和5年度第1回評議員会の実施について ・予算編成業務要領(案)について ・学園の事業計画について ・経営方針について
第3回 (定例)	令和5年7月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・学園状況報告 ・学園の経営方針について ・学納金の値上げについて
第4回 (定例)	令和5年8月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・学園状況報告 ・受配者指定寄付金の活用について ・学納金等の改定について ・電子保存法改正に伴う電子取引の対応について
第5回 (定例)	令和5年9月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・学園状況報告 ・学納金の値上げに係る評議員会の承認について ・8月期の議事録について ・学生の納付金に係る規程変更について ・土地賃貸借契約書について
第6回 (定例)	令和5年10月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・学園状況報告 ・学納金の値上げに関する学則変更届の提出及び豊島区からの受理について ・目白幼稚園へのICT機材の導入について ・令和6年度の活動方針の考え方について
第7回 (定例)	令和5年12月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・学園状況報告 ・めじろ会（同窓会）の活動について ・法人・めじろ会協賛による研修会実施について ・訓練実施施設の選定結果について ・令和6年度予算基本方針・予算大綱確立のための活動方針の考え方について
第8回 (定例)	令和6年2月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・学園状況報告 ・法人・めじろ会協賛による研修会実施について ・撮影協力事業の導入について ・令和6年度予算案について ・児童厚生2級指導員資格の取得に伴うカリキュラム変更及び学則変更について
第9回 (定例)	令和6年3月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・学園状況報告 ・令和5年度第2回評議員会の報告について ・令和6年度事業計画及び予算案について ・理事の競業承認について

2.3.2 評議員会の開催状況

	開催日	審議事項
書面開催	令和5年4月3日	・1号評議員の再任の適否について
第1回 (定時)	令和5年6月3日	・学園状況報告 ・令和4年度決算報告及び事業報告について ・理事の選任について
書面開催	令和5年8月31日	・学納金改定に関する理事会議決への評議員会承認について
第2回 (定時)	令和6年3月23日	・学園状況報告 ・学納金改定に係る学則変更について ・令和6年度事業計画及び予算案について ・児童厚生2級指導員資格の取得に伴うカリキュラム変更及び学則変更について

2.3.3 理事会における重要審議事項と決議内容

(1) 予算編成業務要領について

従来から不明瞭であった「予算編成業務要領」について、業務処理の手順、予算委員会の位置づけ、経理規程の見直し、予算執行段階における情報提供、補正予算との関係などを明確にしていくことが提案された。「予算編成業務要領」を学園として合理的かつ能率的なものとして確立させていくことについて、承認議決された。

(2) 学園の事業計画について

予算編成の根拠となる事業計画について、「中長期的な事業計画」と年度の予算に並行して、「年度事業計画」を作成することについて提案された。事業推移の明確化、財務の改善、募集業務の工夫、和田実のブランド化などに係る提言を経て、承認議決された。

(3) 経営方針について

各種施策実施の根拠となる「経営方針」について、多様な観点から検討を行った。募集定員について適切な数値の把握、損益分岐点の把握、学生数の確保に至らない最悪の場合の対応方針・危機管理対応を考えておくこと等を条件に、「経営方針は前向きとする」として、承認議決された。

(4) 学納金値上げについて

光熱水費の高騰・施設維持費の増加等により、学納金を値上げすることについて審議した。広報の容易性及び学生の負担軽減等を考慮し、財務状況の改善に資することを目的に、施設・維持費を4万円値上げすることとして、承認議決された。

この際、学則の変更申請のため、評議員会の承認を得ることとされた。

(5) 目白幼稚園へのICT機材の導入について

目白幼稚園における幼児教育の質の向上を図るため、東京都の補助を活用し、ICT器材（電子黒板・書画カメラ）を導入することについて提案された。

機材管理の適切性、支払い時期の確認、都からの補助の確実性（補助率10/10）等について審議を行い、承認議決された。

(6) 令和6年度活動方針の考え方について

令和5年度の学生数の激減による収入の大幅減を受け、令和6年度予算の基本方針・予算大綱確立のための活動方針を、今後、明確化していくことが提案された。増収施策の強化、新規事業の開拓と推進、学園の魅力化等を推進し、「厳しい状況を克服する」という大方針のもとに予算案を組むこと、最悪の状況も考慮しつつ、学園運営を進めていくこととして、承認議決された。

(7) 児童厚生2級指導員資格の取得に伴うカリキュラム変更及び学則変更について

本校の学生が児童厚生2級指導員資格を取得するメリットは大きく、また、学校の魅力化にも繋がるため、取得に係るカリキュラムの変更と学則の変更について審議した。

令和6年1月に児童健全育成推進財団から児童厚生員養成校として認定され、令和5年度中に学則変更を豊島区に提出することとして、承認議決された。

(8) 和田実学園特命プロジェクトについて

厳しい財務状況下において、学園存続の危機に対処するための施策を検討するプロジェクトを学園内に設置することが提案され、承認議決された。

(9) 令和6年度事業計画及び予算案について

令和6年度の学生数、今後の入校学生見積数の推移に応じた収支予測・問題点、収支に係る具体的な数値、対処すべき事項、同業他校等との連携の可能性、特命プロジェクトでの検討・推進、資金調達等の観点から今後の対応を具体化していくことが提案された。

次期理事会において、収支予算書・事業計画を提示することとして、承認議決された。

3. 財務の概要

3.1 貸借対照表の概要

(単位：千円)

	令和4年度	令和5年度	増減
固定資産	1,039,119	992,657	△ 46,462
うち有形固定資産	1,007,306	961,255	△ 46,051
流動資産	93,885	72,977	△ 20,908
資産の部合計	1,133,004	1,065,634	△ 67,370
固定負債	1,163	5,651	4,488
流動負債	76,571	62,877	△ 13,694
基本金	1,828,315	1,839,653	11,338
繰越収支差額	△ 773,045	△ 842,547	69,502
負債及び純資産の部合計	1,133,004	1,065,634	△ 67,370

3.2 資金収支計算書の概要

(単位：千円)

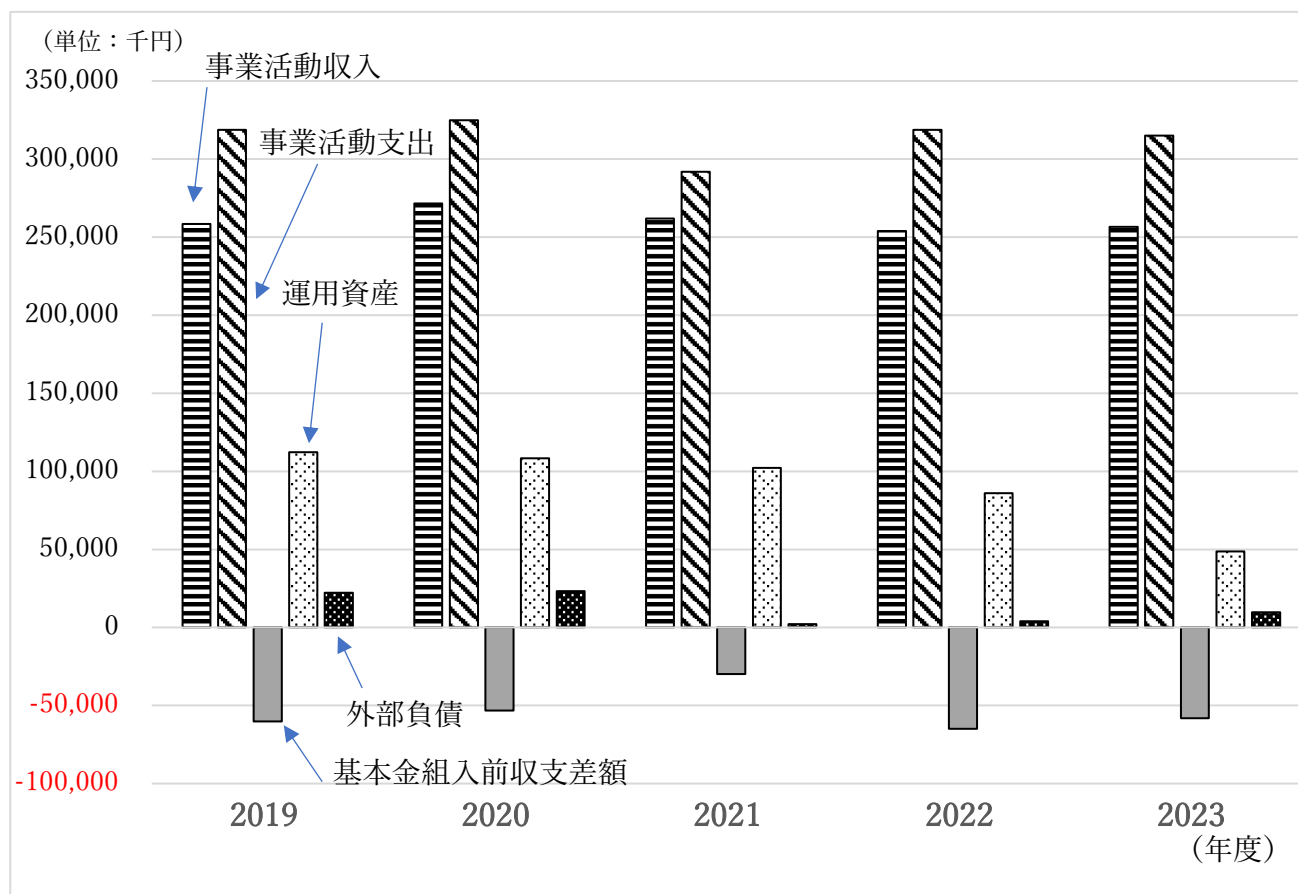
	令和4年度	令和5年度
収入総額 (= 支出総額)	383,240	398,547
うち翌年度繰越支払資金	69,067	32,171

3.3 事業活動収支計算書の概要 (令和5年度)

(単位：千円)

		法人	幼稚園	専門学校	全体
教育活動 事業収支	収入	3,419	43,012	209,928	256,359
	支出	15,949	43,908	254,826	314,683
	差額	△ 12,530	△ 896	△ 44,898	△ 58,324
教育活動 事業外収支	収入	0	0	128	128
	支出	0	0	0	0
	差額	0	0	128	128
特別収支	収入	12	0	20	32
	支出	0	0	0	0
	差額	12	0	20	32
事業活動 収支	収入	3,431	43,012	210,076	256,519
	支出	15,949	43,908	254,826	314,683
	差額	△ 12,518	△ 896	△ 44,750	△ 58,164

3.4 5年間の推移（平成31年度(2019)～令和5年度(2023)）



2020年度に運用資産のうち、第3号基本金2,000万円を取り崩した。